

カラ松木杭利用進める

軟弱地盤対策で成果

長野県木材協同組合連合会



信州カラ松を用いた軟弱地盤対策の実証研修

おり、土木
ており、各地で実証研
究が進められている。
の信州カラ
同工法は環境負荷が少
なく、CO₂を固定し
松の復活を
地球温暖化防止に貢献
目指してい
る。
するなどのメリットが
ある。県木連は丸太基
礎杭設計マニュアルを
作成するなどして普及
を図っている。

信州カラ
松の末口16
径上は合板
やラミナ等
でおう盛な
需要がある
一方、14径
下の丸太の
需要が少な
く、課題と
なってい

長野県木材協同組合
連合会(細川忠國理事
長)は、木材(丸太)
000立方メートルに上
つてきた軟弱地盤対策
を用いた軟弱地盤対策
工事の普及拡大に取り
組んでいる。強度や耐
久性に優れる信州カラ
松は土木用材として最
適であり、用途拡大に
向けて業界一丸となっ
て推進している。

長野県はかつて土木
用材の産地として知ら
れ、ピーク時である1
970年の土木建設用
材出荷量は年間20万5
千立方メートルの丸太が活用
できることから、未利
用の丸太サイズで需要
が開けることの意味は
大きい。
これを関連して飛鳥
建設、兼松日産農林、
昭和マテリアルの3社
が共同開発した「丸太
打設液状化対策&カー
ボンストック(LPI
10年の2.5倍に当
たる75万立方メートルで引
き上げる目標を掲げて
技術審査証明を取得し